



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：女性労働に関する労働省発表に対する産業界の反応
(15日付サウジガゼット紙)

15日付現地英字紙サウジガゼット紙は、女性の雇用に関する11日付の労働省発表に対する産業界の反応について、以下のように報じた。

11日に発表された「女性服、アクセサリー、化粧品を扱う小売店の店員をすべてサウジ人女性に置き換える」という労働省の発表に対し、同業種のオーナー等から「検討不足である」等の批判が労働省に寄せられている。

労働省に寄せられた具体的な意見は次の通り。

1. 我々の店では、以前、サウジ人女性を雇用しようとしてうまくいかなかった経験がある。その主な理由は「女性の通勤」に関わる問題である。労働大臣は、まず最初に解決されるべき女性の通勤に関わる障害（女性の運転禁止、および公共交通機関の未整備）に目をそむけたままで、どうやって上記規制を実行するつもりなのか。
2. サウジの社会では、伝統的に、女性だけではタクシーやバスを使いづらい雰囲気がある。女性が適切な通勤手段を勤務時間に合わせて利用できなければ、規制は実行不能である。これらの社会背景も含めて議論しなければならない。
3. 当局は、我々に対して女性のマネキン（顔付き）を使って服をショーウィンドウに飾ることさえ禁じている。それなのに、女性を店員として雇えというのか。
4. 例えば、女性の化粧品売り場には男性客も来るし、男性のメーカー担当者とも仕事をしなければならない。店のオーナーの多くは男性である。これらの男性と女性店員が仕事場で「混合」することを許容しなければ、この規制は絶対に成功しない。逆に、仕事場で男女混合が認められるのなら、我々はこの規制に進んで協力したい。

データ；サウジの女性問題をめぐる動き（2011年）

2011-02-09 アルクドゥスラアラビー紙はサウジ消息筋の話として、サウジ当局が8日、数年前から裁判にかけられることなく勾留されている身内の釈放を求めて今月5日に内務省前でデモを行い拘束されていた女性52名を釈放した、と報じた。これら女性達の身内の者達が7日、ナイーフ内相に謁見し、勾留中の女性達がデモを二度と行わないことを誓約して釈放が実現。サウジでデモが行われるのは珍しい。女性達が釈放を求めた被勾留者の中には10年以上も勾留されている者もいるという。人権団体アムネスティ・インターナショナルによると、アルカーイダ対策の一環として、改革を要求する活動家数千人が拘束されているという。

2011-02-28 アブドルアジーズ・アールツシェイフ最高法官は自分のウェブサイト上で、女性の政治参加に反対する見解を示した。

2011-03-22 延期されていた地方議会選挙を来月 23 日に実施することが発表された。当初は 2009 年 10 月 31 日に任期（4 年間）が切れる各地方議会の選挙が 1 年半も延期されていたことは、人権活動家を苛立たせていた。当時、延期の理由として、有権者の拡大、女性の投票権を認めるかどうかの検討に時間が必要ということが挙げられていた。2005 年の第 1 回選挙に続き今回も女性の参加は認められず、改革派は失望しているという。先週、選挙を管轄する都市村落省は、サウジの社会的慣習により、今年選挙で女性は投票できないと発表していた。

2011-03-28 選挙管理委員会のアブドルラフマーン・ダフマシュ（Dahmash）委員長は記者団に対して、来月予定の地方議会選挙に女性が参加するための準備ができていないと述べた。それと同時に、次回選挙において当局は女性の参加を許すことになるだろうという前の約束を繰り返した。女性の活動家らは、この決定に反発。

2011-04-23 9 月投票の第 2 回地方議会選挙の有権者登録の更新が始まった。ジェッダでは、女性の参加が今回も禁じられているにも拘らず、数名の女性が登録に押しかけ、象徴的な抗議活動を行った。東部州でも女性による同様の小規模の集会在当局に解散させられ、うち 2 名が拘束されたという。

2011-05-15 アブドゥラー国王は、サウジ最大の女子大プリンセス・ヌーラ・ビント・アブドルラフマーン大学をリヤード郊外に開校した。総工費 53 億ドル。学部数 15 で、最大で 5 万人の学生が学ぶことになる。

2011-05-15 30 歳代のサウジ人主婦ナジュラ・ハリリーは AFP に対して、ジェッダで 4 日間に亘りノンストップで自動車を運転することで、同国で女性に課されている自動車運転禁止に挑むと述べた。これに並行して、ネット上では、来月 17 日に女性の自動車運転禁止に抗議する全国規模での女性による運転が呼びかけられている。

2011-05-21 女性による自動車運転禁止措置に抗議するキャンペーンを立ち上げ、東部州ホバルで自ら自動車を運転する様子を収めたビデオをフェイスブック等に掲載したマナール・シャリーフが勧善懲悪委員会により数時間拘束された。6 月 17 日には全国規模での女性による自動車運転キャンペーンが呼びかけられている。

2011-05-23 女性による自動車運転禁止に逆らって自動車を運転したマナール・シャリーフ（32 歳のコンピューターセキュリティ・コンサルタント）が、同禁止措置を無視するよう女性を扇動したとして起訴された。21 日に勧善懲悪委員会により数時間拘束された後釈放された同人はその後、刑事捜査警察に逮捕された。弁護士によると、女性に自動車運転を扇動することを犯罪と定めた法律は存在しないという。

2011-05-24 AP は、自動車を運転して逮捕されたマナール・シャリーフの釈放を要求する声が国際人権団体や国内の人権活動家から上がっていると報じた。サウジ人約 800 名がシャリーフの釈放を国王に求める嘆願書に署名した。

2011-05-26 自動車を運転したとして「公共の秩序を乱した罪」で逮捕された女性マナール・シャリーフの弁護士らは、同人の勾留が更に 10 日間延長されると述べた。東部州の宗教学者ガージー・シャンマリーは、戒めとして同人は鞭打ちにされるべきだと主張。

2011-05-29 自動車を運転して逮捕されたマナール・シャリーフはアブドッラー国王に対して自らの釈放を訴え出た。同人の弁護士は、逮捕後同人が気絶し、運転禁止を破ったことへの悔悟の念を表明したという地元紙の報道を否定した。シャリーフの釈放を要求する嘆願書の署名は 1000 を超えた。フェイスブック上では同人を支持するグループと、女性の運転に強く反対するグループの双方が競い合うかのように支持を広げている。

2011-05-30 自動車を運転して拘束されていたマナール・シャリーフが 10 日間の勾留後、保釈された。国内外からの圧力の結果によるという。同人は二度と運転しないこととメディアに話しをしないことへの同意書に署名したという。サウジ当局に女性の自動車運転禁止解除を求める嘆願書の運動は続けられるという。

2011-06-01 サウジ紙オカーズは、マディーナ市でサウジ人女性実業家が自分で雇い上げている運転手からレイプされたと主張していると報じた。同運転手（国籍の言及はなし）は逮捕されたという。女性の自動車運転を認めるようにという機運が盛り上がっている際にこうした「事件」が起きた。

2011-06-17 女性の自動車運転禁止に抗議して、40 名以上のサウジ人女性が自動車を運転した。

2011-06-21 米国のクリントン国務長官は記者団に対して、サウジ人女性による自動車運転解禁を求めるキャンペーンを公に支持した。これまで米国はこの問題について沈黙を守っていたが、サウジ人女性は同長官に対して自分達の要求を公に支持するよう求めていた。但し、同長官はサウジ内政には介入しないことを明確にした。

2011-06-22 サウジでの女性の自動車運転禁止に抗議する団体 Saudi Woman for Driving は、更に 2 名の女性がリヤードで自動車を運転したと発表した。

2011-06-28 アブドッラー国王の姪で社会活動家（サウジの女性問題）として知られるバスマ・ビント・サウード王女は BBC アラビックとのインタビューの中で、アラブのどの国も変革の波から免れることはできず、それを強制されるようになる前に国民に自由を与えるべきだと述べた。また、自分の父であるサウード第 2 代国王が創設した勸善懲悪委員会（宗教警察）について、本来の任務から逸脱し、特に女性に対して社会的な圧力を加えるようになっており、恐怖に怯えた社会を作り出していると非難。

2011-07-12 サウジで影響力のある宗教学者で王宮府顧問のアブドルモフセン・オベイカーンは、女性が近親の男性（マフラム）の同伴無しで旅行することを可能とする見解を表明した。現在でもサウジ人女性は旅券の取得や旅行の際に男性親族の許可を義務付けられている他、自動車の運転を禁じられている。